

自立活動研修

チームで行う実態把握

川西高等特別支援学校 窪田幸子

研修内容決定の背景

—本校の教職員の自立活動に対する意識—



研修のねらい

- ① 自立活動の内容の27項目の窓から生徒の実態把握を行う
- ② チームで実態把握を行うことのメリット(妥当性、共通理解、協働の同僚性の構築など)について考える

研修の方法・内容

◆研修方法

5~6名のチームで対象生徒の実態把握を行う

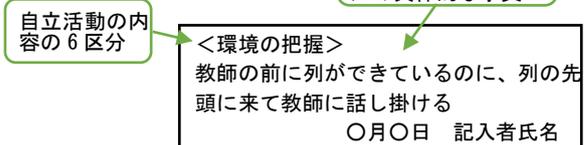


◆研修内容

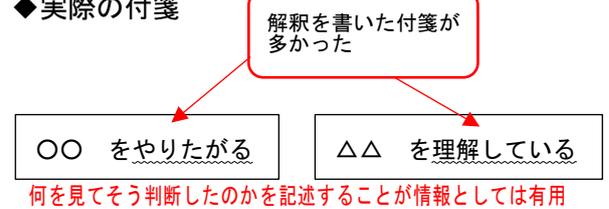
1. 事前に対象生徒を観察し、実態を具体的に付箋に記入する(1人4枚)
2. 付箋を読み合い曖昧な記述の確認を行う
3. KJ法を参考に実態把握図を完成
→未実施、後日実施予定

研修の様子

◆付箋の記入例



◆実際の付箋



教師の気付き

- ・ 行動を文章にすることの難しさ
- ・ 自立活動の内容のどの項目に該当するのかの判断の難しさ
- ・ 自分自身の見方のくせに気付く
- ・ 立場により見方が異なることへの気付き
- ・ 視点が広がった
- ・ 生徒理解が深まった

成果と今後の課題

- ・ ねらいが達成できた(感想より)
- ・ 教師自身の気付きを促すことができた

- ・ 時間の確保が難しい
- ・ 今後につなげることができるのか
- ・ 意図を伝えることの難しさ(付箋の書き方にばらつき)